

序

北海道開発局は、昭和26年7月1日に設置され、以来、70年を迎えます。

北海道は明治維新後、政府により開拓事業が進められてきました。戦後は、食糧の増産やエネルギー確保、人口問題の解決などを目的とした北海道開発法が施行され、昭和26年に北海道総合開発計画を推進する直轄事業の実施機関として北海道開発局が設置されました。この70年間、8期にわたる北海道総合開発計画（閣議決定）に基づき、北海道の資源と特徴を活かして、その時々時代の潮流に対応しつつ、国の課題解決に貢献するとともに、北海道の活力ある発展を支える社会資本整備を総合的・計画的に推進してきました。

今日の北海道は、明治のはじめには5万人であった人口は500万人を超え、経済規模は欧州の一国に匹敵し、食料の供給や観光・保養の主要な拠点として、我が国全体の安定と発展に大きく寄与する地域となっています。

これらは、北海道開発行政の推進を支えていただいた先輩諸氏、そして、道内外の多くの皆様の北の大地に寄せる期待と熱意の成果であり、改めて深く謝意を表する次第です。

今日、私たちは、人口減少・少子高齢化やグローバル化の進展、大規模災害の切迫、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより、社会経済活動や人々の価値観が大きく変化しようとする、まさに時代の転換期を迎えています。

北海道の広大な大地や豊かな自然環境のもと、アイヌの人々を始めとする多くの人々は独自の文化や伝統を育んできました。このような時代であるからこそ、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力を有する北海道が、世界水準の価値創造力を発揮し、我が国全体の発展をリードしていくための地域社会の形成を実現していくことが重要です。

このような折、70年間にわたる北海道開発局の歴史を改めて振り返り、新たな時代の北海道開発の道標とするため、ここに「北海道開発局70年史」をWEBにて発刊することといたしました。

本書が、北海道開発局の役割についての皆様のご理解を深め、今後の北海道開発を推進していく上で、いささかでもお役に立てれば望外の喜びとするところであります。

令和3年6月

北海道開発局長

倉内 公嘉